

夫婦や親子といった家庭内または職場 —— 様々な人間関係をかたち作るベ
ースは「コミュニケーション」です。10回にわたり、私たちが普段気付かずにい
る効果的なコミュニケーション方法について、学校や企業で多数の研修に携わ
ってこられた松浦留美子さんにお話を伺っていきます。

※ 三角波：時化た海で方向の違う二つ以上の波が重なってできる三角形の波で、
船の舵が取れなくなる危険な状態を言う

回答者

インストラクター 松浦 留美子さん

聖心女子大学哲学科卒業。Gordon Training
Institute認定インストラクター。小、中、高、その
他各種教育機関においての親向けの講演活動や教
員研修、管理職研修、医療スタッフ研修などを行う。
教師学講座 (Teacher Effectiveness Training)、
親業訓練講座 (Parent Effectiveness Training)
などの各種コミュニケーション講座を開講。

www.oyagyo.or.jp



質問者



センター・ピープル代表取締役 飯塚忠治

第4回 望まない人事異動に直面したら

Aさんの上司であるB部長が、Aさんに現在
とは別のプロジェクトへの異動を打診してき
ました。会社にとっての益になるなら、異動す
べきかと思えます。しかしながら、現在のプ
ロジェクトでは学ぶことが非常に多く、できる
ならば異動したくない、というのがAさんの
本心です。

この場合の対応として、以下の2つが考えら
れます。

① 「はい、分かりました」と返事をし、心の
中で上司を恨む＝「面従腹背」

② 「異動はお断りします」ときっぱり言う＝
「自己主張」

飯塚 このようなことは会社に勤めている限
り、日常茶飯事なのではないかと思えます。自
分が嫌でも、それが大きな観点から会社にとっ
て大事と言われると、おのずと答えは出てしま
う。その背景には、柔軟性に欠けていると思わ
れると将来の昇進にも影響してくるのではとい
う懸念もあるでしょう。

松浦 飯塚さんがおっしゃる通り、B部長の提
案に対し、理由が何であれ、あえて「異動したく
ない」と言うのは、会社の意向に反するとか、柔
軟性がないと受け取られる危険があります。そ
れがAさんのジレンマだったわけです。しかし、
Aさんはこの状況を以下のように解決しました。

B部長 「A君、前にも話したが、私は君は〇
プロジェクトのメンバーに入った方が良いの
ではないかと思っているのだが……」

Aさん 「部長は私には〇プロジェクトが合っ
ているとお考えなのですね」

B部長 「そうなんだ。今のプロジェクトは
君の専門外だし、〇プロジェクトならびつた
りだと思ったんだ」

Aさん 「そうですか。信頼していただきう
れしいです。実は、私は今のプロジェクトで
新しく学ぶことが非常に多く、やりがいを感
じています。今後、この会社で働くには必要
な経験だと感じています」

B部長 「そうか、良い勉強になっているよ
うだね」

Aさん 「はい、B部長が私に活躍の場をと
お考えくださっていることをありがたいと思
います。ですから、自分の力が役立つのでし
たらもちろん、喜んで異動いたします」

B部長 「そうか、よく分かったよ。もう少し
考えてから返事をしてくれないか。私も、もう
一度考えてみるよ」

Aさん 「はい、分かりました」

飯塚 この場合、Aさんが、B部長に信頼され
ていることに対する感謝の意を伝えたことと、
自分本位で発言していないことを示す「役立つ
なら喜んで異動をお受けします」という言葉
を含む発言にも、状況を転換させる高いコミュニ
ケーション力を感じさせます。これが状況を良
い方向にもっていく分水嶺となったような気が
します。このお話では結論が出ていませんが、
そこも教えていただきたいところです。

松浦 B部長が判断し、Aさんは現在のプロジ
ェクトで引き続き働くことを認められました。ま
た、B部長との信頼関係も以前より深まったと
いうことです。自分の考えを伝えるに当たって、
まず相手の考えをしっかりと聞いて言葉にしてい
ること、また、感謝の気持ちも正直に伝えてい
ることが相まって、お互いの理解を促進し、関
係を強化する結果に繋がったと言えるでしょう。

飯塚 今回の事例は一言で表現しますと高い
コミュニケーション力が良い方向に状況を導い
たということになりそうですね。このような言
葉が自然に出てくるのが出来るようになるた
めにはどうすれば良いかという課題はありそう
です。よく聞く言葉ですが、「そんな意味で言っ
たつもりではなかったのですが……」などとい
う場面でも、やはりコミュニケーション力が大
きくものを言いそうです。8月号は「けんか両
成敗」というテーマでお話いただくことになっ
ています。

ご案内の事例は、セミナー、ワークショップで実際に語られた内容を本質から離れないように編集しております